

社会保障制度改革国民会議報告書について

本日、社会保障制度改革国民会議は「確かな社会保障を将来世代に伝えるための道筋」と題する報告書を内閣総理大臣に提出した。

国民会議においては、持続可能な社会保障制度の実現に資するため、今日まで、精力的かつ真摯に議論を尽されたことに敬意を表する。

この報告書において、少子化対策、国民健康保険をはじめとする医療保険制度、介護保険制度等について、都市自治体等の意見を踏まえ、一定の改革の方向が示されたことを評価したい。

とりわけ、積年の課題であった国民健康保険の運営主体の移行について抜本的な改革の方向が示されたことは、画期的であり、高く評価する。制度改革の具体化に当たり、国においては、安定的な運営が確保されるよう必要な財政措置を確実に講じるとともに、関係者間の協議や移行準備に要する時間を勘案のうえ、新しい制度への移行時期と工程表をできるだけ早く明確に示されたい。

国においては、今後、必要な法制上の措置等を講じる際には、社会保障の現場を担っている基礎自治体の意見を十分反映することを強く求める。

平成25年8月6日

全 国 市 長 会